

岩手県医師会 広報活動事例

1. ネット動画配信による四師会長対談企画
2. 医学生へ「医療プロフェッショナリズム」講義
3. 岩手県女性医部会と岩手医科大学学生との懇談会
4. 県民公開講座「いわて健康塾」
5. 県民公開講座「アドバンス・ケア・プランニング」

1. ネット動画配信による四師会長対談

ネット動画配信による四師会長 対談企画

「 いわて医療・介護ミライLAB
～岩手県・医療介護の現状と未来を語る～ 」



一般社団法人 岩手県医師会



日本医師会 キャラクター

「日医君(にちいくん)」岩手県バージョン

・背景及び目的について

岩手県は、日本全国が直面している少子高齢化と人口減少の影響により、「医療需要の変化」「医療従事者の不足」「地域格差の拡大」など深刻な課題に直面している。これらの課題に対応するためには、医療専門職や行政、地域住民が一体となった取り組みが不可欠で、岩手県の現状や課題の可視化、今後の具体的な対策や連携施策の提案、一般県民への情報発信と理解促進の一助として活用できる。

・期待される効果について

県医師会・県歯科医師会・県薬剤師会・県看護協会の公式見解や取り組みを県民に直接伝えられる。また、他団体や行政との連携を具体的に示せることで、協働意識を高められる。県民をはじめ視聴者には、信頼の高い情報や方針を知らせることで、県民自身の健康や医療への関わり方を考えるきっかけが期待できる。

ネット動画配信による四師会長 対談企画 「いわて医療・介護ミライLAB～岩手県・医療介護の現状と未来を語る～」

YouTube配信について



令和6年7月盛岡市内で収録が行われました本対談企画は人材会社との連携・企画により、医療介護の課題に対して考える場を作りYouTubeを通して発信しました。岩手県医師会 本間 博会長、岩手県歯科医師会 佐藤 保会長、岩手県薬剤師会 畑澤博巳会長、岩手県看護協会 相馬一二三会長4名が参加して対談が行われたものを収録・配信しています。

内容は、岩手県の抱えている医療の現状と課題、課題に対する各会の取組状況、これらの課題への取り組みを通して今後の展開を行う上での構想について、各会の報告説明を行いながら対談が行われています。次のテーマに沿って、3つの動画配信が行われています。

#05 「人口減少における医療現場の現状と課題、解決と協力について」 No.1

テーマ：岩手県の医療課題の現状、医療従事者の働き方改革、妊産婦 小児医療の問題、医薬品の安定供給に向けての課題

(<https://youtu.be/4GI46BJevEo>)



#06 「人口減少における医療現場の現状と課題、解決と協力について」 No.2

テーマ：課題解決に向けての取り組み、医療従事者の偏在と人材不足の現状、DX化の現状と課題

(<https://youtu.be/GxeplrC87TY>)



#07 「人口減少における医療現場の現状と課題、解決と協力について」 No.3

テーマ：医療・介護における多職種連携のあり方、岩手県民に向けて一言

(https://youtu.be/T_29RkHKVFI)





医療と人口減少

を考える

この対談の内容はYOUTUBEで配信され、誰でも視聴可能だそうで、以下のコードやヒロキャリアスタッフのサイトからご覧いただけます。パソコンで検索する場合は「ヒロキャリアスタッフ」と検索してください。

対談の動画は
こちらから



相馬会長は、看護職の不足と高齢

の役割の多様化と在宅医療への対応について説明。奨学金返済支援や退職金返還の再雇用など、薬剤師の不足を補うための具体的な提案を行いました。

相馬会長は、看護職の不足と高齢の役割の多様化と在宅医療への対応について説明。奨学金返済支援や退職金返還の再雇用など、薬剤師の不足を補うための具体的な提案を行いました。

相馬会長は、看護職の不足と高齢の役割の多様化と在宅医療への対応について説明。奨学金返済支援や退職金返還の再雇用など、薬剤師の不足を補うための具体的な提案を行いました。

相馬会長は、看護職の不足と高齢の役割の多様化と在宅医療への対応について説明。奨学金返済支援や退職金返還の再雇用など、薬剤師の不足を補うための具体的な提案を行いました。

相馬会長は、看護職の不足と高齢の役割の多様化と在宅医療への対応について説明。奨学金返済支援や退職金返還の再雇用など、薬剤師の不足を補うための具体的な提案を行いました。

医療・介護を
考える場をつくる

今回のシニアズでは、株式会社ヒロキャリアスタッフと「いわて医療・介護ミライラボ」を取材してきました。ミライラボは、県内の医療・介護分野における課題について関わる方が対談を行うことで、問題に向き合うことや、解決に向けての協業のきっかけになるのではとヒロキャリア

計5名で、岩手県の人口減少に伴う医療ニーズの变化、そして岩手県独自の問題点を議論し、具体的な解決策を模索していました。

各師会の抱える問題や取り組み
対談の中では、医師の働き方改革や医療従事者の偏在解消についても議論が交わされ、地域医療構想やICTの活用によるデジタルトランスフォーメーシ

リアスタッフが始めた動画配信企画です。

今回の対談テーマは「人口減少における、医療現場の現状と課題。解決と協力について」ということで、出演者は岩手県医師会会長の本間博さん、岩手県歯科医師会会長の佐藤保さん、岩手県薬剤師会会長の相馬二三さんの4名に、司会の岩手県医師会常任理事の橋本真生さんの

ンが進められるべきであり、医療従事者の確保と地域間のバランスを取るための具体的な方法が求められていました。

本間会長は、少子高齢化による医療需要の変化と医療従事者の減少、地域間の医療資源の偏在について言及。特に、医師不足が深刻な沿岸地域では、医療提供体制の維持が困難であることとを強調しました。また、医療のデジタル化などが必要であるとし、具体的な対策についても触れました。

このように、数多くの課題や対策が話し合われた四師会の会長によるこの対談は、各師会の今後の具体的な活動やその背景にある考え方を知る機会となっています。この対談は、単なる現状報告にとどまらず、各会長が直面する現実的な問題とその解決に向けたビジョンを具体的に語る場となりました。

2. 医学生へ「医療プロフェッショナリズム」講義

岩手県医師会 本間博会長が、医学部4年生を対象に「地域医療と医師の役割」と題し、医師としての社会的責任、医師会の歴史・役割、行政のカウンターパートとしての医師会、医療政策が実現するまでの過程の他、日本医師会や岩手県医師会が行う会員への各種支援について触れ、卒業後に医師会への関心を寄せていただくべく内容にて講演。



その後、佐久総合病院（長野県）藤澤郁哉先生、盛岡市立病院 藤原裕大先生、千田クリニック 千田恵美先生の3名による地域医療に関する講演後に、岩手医科大学の佐々木真理医学部長・伊藤智範教授の司会の下「地域医療と医師会の役割を咀嚼する」というテーマでフリートーキングが行われ、地域医療の実際と医師会役割の認識を深め、また将来における自分のキャリアを実感していただけたと思われる。

3. 岩手県医師会女性医部会と 岩手医科大学学生との懇談会



日本医師会女性医師支援センター「医学生、研修医等をサポートするための会」の助成を利用して開催。令和6年度は、女性医部会設立23年目にあたり、本懇談会も設立以来19回目となり、コロナ禍が明けてから、ようやく再開できた対面式での開催になった。岩手医科大学副学長 酒井明夫 先生による「西洋史における女性治療者の足跡」と題した講演が行われた。参加者数は65名で、これまでで最多の人数で、女子学生を中心に、県内の女性医師も多数参加いただき、情報交換会でも充実した時間を持つことができたと考えられる。

岩手医科大学学生の皆様へ

日本医師会・岩手県医師会
岩手医科大学医師会・岩手医科大学研究者支援室設置準備委員会 共催

～令和6年度 岩手県医師会女性医部会と
岩手医科大学学生との懇談会開催についてのお知らせ～

～開催にあたって～

私達、岩手県医師会には女性医部会があり、活動の一つとして学生の皆様との懇談会を年に一回開催してまいりました。新型コロナウイルス感染症により暫く中止となっておりましたが、今年度は久々に開催することとなり、副学長の酒井明夫先生から「ダイバーシティ」に関連する内容でご講演を頂きます。

医学部に限らず、歯・薬・看護の学生さんの参加も多数お待ちしております。

多様な科の中薬・看護
女性医師が多数参加予定！

【日 時】令和6年 11月12日(火) 午後6時30分

【場 所】アートホテル盛岡 3階「鳳凰の間」

(盛岡市大通3丁目3-18)



【講 演】《座長 岩手医科大学 生物薬学講座生体防御学分野
教授 大橋 綾子》

『西欧史における女性治療者の足跡』

岩手医科大学 副学長 酒井 明夫 先生

(講演終了後、懇談会となります)

【シャトルバスのご案内】

※矢巾キャンパスとアートホテル盛岡間に
無料シャトルバスをご用意いたします。

往路：矢巾キャンパス正面玄関前 17:40 発
復路：アートホテル前 21:30 発

問合せ先 岩手県医師会事務局

TEL: 019-651-1455 / E-mail: noda-no@iwatemed.jp

★参加費無料★
講演終了後、
立席の懇談会を行います。
懇談会への参加は、
事前申込み不要！

4. 県民公開講座「いわて健康塾」

2024年度「いわて健康塾」
過去の災害から今後の巨大災害に備えよう!
 ～災害医療の現状と避難時の心得～



近年は大地震や台風、豪雨災害などが頻発し、今後起こりうる災害への備えが重要で、災害現場での医療は、通常の医療とは異なり、多くの患者を少ない医師や看護師が、限られた物資や環境で治療をしなければなりません。
 今回は、東日本大震災や2016年の台風10号を振り返りながら、災害現場で治療を受ける当事者になった場合に事前に知っておきたい避難知識や、避難時に役立つ準備や心得を、災害医療が専門の岩手医科大学救急・災害医学講座教授、岩手県高度救命救急センター長の眞瀬智彦先生がやさしく説明します。

講師 眞瀬 智彦 先生
 岩手医科大学救急・災害医学講座教授
 (岩手県高度救命救急センター長)
 【略歴】 岩手医科大学、国立中央病院救急科、救急医療センターなどを歴任。2022年4月から現職。

日時 2024年 **10/20日** **会場** アートホテル盛岡「風見の間Ⅱ」
 午後2時～3時30分 (開場は午後1時30分) 盛岡市大通3-3-18 ☎019-625-2131
【定員】 100人 **【入場無料・事前申込】** **【司会】** 江口アミ(テレビ岩手アナウンサー)
 ◆主催:岩手県医師会/岩手読売会/テレビ岩手/読売新聞盛岡支局 ◆後援:岩手県/盛岡市/エフエム岩手

いわて健康塾申込書

ご住所 〒 希望人数 人
 氏 名 電話番号

岩手読売会 入場料を全額お返しします。電話またはFAX、はがき、QRコードでお申し込み下さい。
 電話の受付は、平日 午前10時～午後4時。

電話 019-623-2215 FAX 019-625-7198
 〒020-0015 盛岡市本町通2-3-2 読売盛岡ビル3階

※応募の個人情報は、岩手読売会、YRが主催のイベント、自店販出商品・イベント等の企画に利用させていただくことがあります。

専門医が医療の知識や考え方について伝える県民公開講座「いわて健康塾」を開催。眞瀬智彦岩手医科大学救急・災害医学講座教授、岩手県高度救命救急センター長が「過去の災害から今後の巨大災害に備えよう～災害医療の現状と避難時の心得～」と題して講演した。約80名の来場者を迎え、講演後に座談会形式で参加者からの質問にも回答され盛会であった。

【主催】 岩手県医師会、岩手読売会、読売新聞盛岡支局、テレビ岩手

【後援】 岩手県、盛岡市、エフエム岩手



5. 県民公開講座 「アドバンス・ケア・プランニング (ACP)」

Advance Care Planning
アドバンス・ケア・プランニング (ACP)

最期まで私らしく 「生きる」ために

～アドバンス・ケア・プランニング(ACP)を一緒に考えてみませんか?～

県民公開講座

日時 令和6年12月15日(日) 14:00～16:30
会場 岩手県医師会館 4階ホール
(盛岡市東園2丁目8番20号)
対象 一般の方、医療関係者、介護福祉関係者、行政職員 等
申込 事前の申し込みが必要です。
申し込み締め切り**12月10日(火)17時**。定員となり次第、締め切らせて頂きます。

入場無料
定員300名

特別講演

- いざにんといろ
● **一人十色の死生観**
～最期まで私らしく「生きる」ために～
碧祥寺 太田 宣承 住職
- **アドバンス・ケア・プランニング (ACP)について**
岩手県医師会の「生きる」を支える会
木村 祐輔 職員
(岩手医科大学 緩和医療学科 特任教授)
- **岩手県医師会のアドバンス・ケア・プランニング(ACP)への取り組み**
岩手県医師会
滝川 佐波子 常任理事
(岩手県医師会 総務課 課長)

主 催/岩手県医師会・岩手県
岩手県会社(一社)岩手県医師会事務局 TEL.019-651-1455

【お申し込み】
こちらのQRコード
から申し込みできます。

■アドバンス・ケア・プランニング(ACP)についての県民公開講座を開催。岩手県医師会におけるACPの取り組みについて紹介し岩手県医師会在宅医療センターの事業として、ACP県民公開講座、サポーター養成研修会、出前講座といった取り組みを行ってきたこと、『わたしの「生きる」ノート』の紹介を行った。その後、岩手県民の「生きる」を支える会議議長・岩手医科大学緩和医療学科特任教授 木村祐輔先生より「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)について一緒に考えてみませんか?」と題して講演が行われた。特別講演は、碧祥寺住職・社会福祉法人光寿会 太田宣承理事長により「一人十色の死生観～最期も私らしく生きるために～」と題して行われた。約180名の来場者であった。

■公開講座終了後のアンケート結果

- ・ACPについて知ることができ、あらためて死にむかうときの心構えを考えておくことが自分のみでなく、家族やまわりの人にとっても必要と感じた
- ・ACPは、相手の人生を聴くことだなと思った
- ・今と10年後、考え方が変わっているかもしれないため、ずっと考え続けていくことが必要なのだと感じた

わたしの「生きる」ノート

幸せに歳を重ね、人生の最後まで自分らしく
豊かな人生を過ごすために

わたしの 「生きる」ノート



わたしの「生きる」ノート サポートブック

幸せに歳を重ね、人生の最後まで自分らしく
豊かな人生を過ごすために

わたしの 「生きる」ノート

サポートブック



入院などをきっかけに、今後、重病になったり体の機能が落ちたりした時のことに備えて、どこでどのような生活を希望し、どのような医療を期待し、さらに尊重してほしいこと、やってほしくないことなどについてあらかじめ患者と家族や大切な人、医師、ヘルスケアスタッフなどが何度も話し合いそのプロセスを「患者の思いを記入するノート」。

岩手県医師会ホームページよりダウンロードできます。